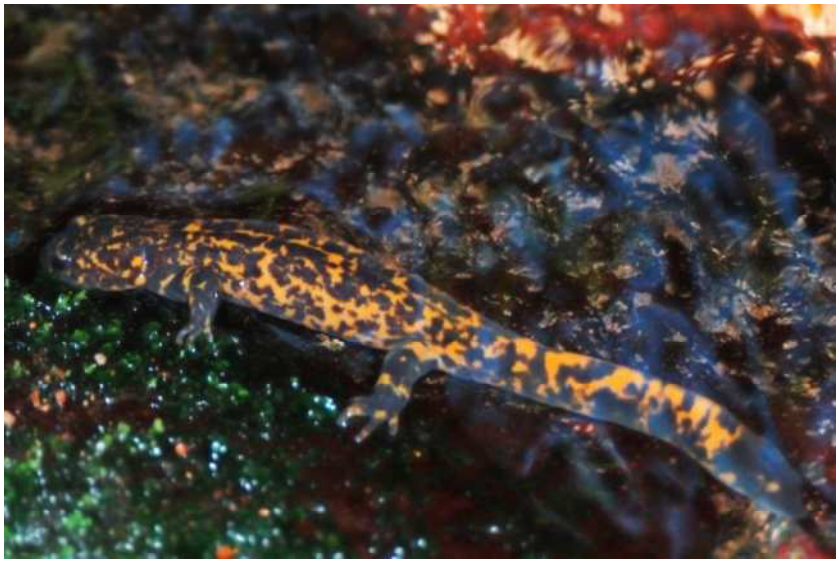
令和５年３月 24 日発行

鹿児島県立博物館

鹿 博 だ よ り

No.104



ベッコウサンショウウオ

阿蘇山から霧島山系のみに分布し，標高 500～1,500mの落葉広葉樹や照葉樹林帯に生息する流水性サンショウウオである。写真にあるように，生体には黒褐色の地色に黄色い斑紋が入る「べっ甲模様」があり，日本産小型サンショウウオの中で最も美しいと評される。分布が一部に限定されていること，および生息環境が急速に悪化していることから，鹿児島県レッドデータブックでは絶滅危惧Ⅱ類に区分され，鹿児島県の希少野生動植物に指定されている。

博物館法改正間近，新しい博物館を目指して！

館長　　山田島　崇文

幼少期から，よく訪れていた県立博物館。一列に並んだ貝標本は煌めく宝石のようであり，石器や土器は今でも使えそうで目が離せない。ギーコギーコと音をさせながら木造階段を上ると，１階を見渡せる場所があり，まるで３Ｄのように迫って見えたことも。窓際には矮性アサガオの鉢物があったりと，博物館は私にとって想像力と冒険心を高める異空間でした。当時の建物は旧考古資料館（興業館）で，今年築140年目となりました。その半分の年月，70年がたち，改正され新しくこの４月施行されるのが博物館法です。博物館が資料の収集・保管，展示・教育，調査・研究だけを担う時代は終わり，文化，観光，まちづくりなどに貢献する努力が加わるのが特徴です。確かに，本館に対する社会の期待はここ10年間で大きく拡がってきていると実感しています。今年度はウィズコロナの流れもあって，県内外自治体，教育委員会はもとより，ホテル業や運輸業，マスコミ等からの提案，さらには全国和牛能力共進会，７月に迫った全国総文祭など大規模イベントへの協力といった連携や提携の検討場面が多くありました。中でも教育機関である本館に，広くSTEAM教育の一端を担うという側面があることを発見したことは大きな収穫でした。シンクタンクである本館は，日頃から課題の設定や研究の方法，調査，結果作成，考察などの一連の活動を行っています。この手法を中学，高校で始まった探究の授業指導に転用し，講師派遣も積極的に行ったところです。この多岐にわたる拡がりは何も県内や国内に限ったことではありません。国際的にも，昨年国際博物館会議（ICOM）の博物館定義は「多様性と持続可能性を育み，論理的にコミュニティ参加とともに活動する（一部抜粋）」と改訂され，博物館はいわゆる文化のハブとしての役割が期待されています。これからはいかに県民や地域と関わり，連携し機能していくかが重要でしょう。本館職員は来館者をただ待つという守りの立場であってはいけない。県立博物館本館は築96年目，プラネタリウムも44年目となりました。古いものも大切に，時代とともにアコモデーション改良を行ってきた運営手法などを活かしながら，さらなるさまざまな主体との連携を模索し，博物館機能を充実させていくことが大切と考えます。これらと連動しながら，法改正に伴う本館の登録博物館申請，認可，登録を進めていこうと思います。

調査研究

令和４年６月に喜界島でネムノキの仲間についての調査を行いました。喜界島はヒロハネムという樹木の分布南限になっています。しかし，喜界島のヒロハネムとされる樹木は，葉が広くなく，県本土のネムノキによく似た形態をしているため，ヒロハネムではないのではないかという疑問の声がありましたが，はっきりとしたことは分かっていませんでした。この問題を解決するため，ネムノキ類の花が咲く，６月26，27日に喜界島を訪れ調査しました。その結果，喜界島のヒロハネムとされる植物は，ヒロハネムの形態とは異なっていて，県本土に分布するネムノキと同じ形態をしていることが分かりました。

また，喜界島は周囲48.6kmの島ですが，その中を２日間で250kmを車で移動しながら，ネムノキの仲間がないか調査しました。発見したネムノキは４個体だけで，ヒロハネムは見つかりませんでした。

今回の調査結果から，喜界島が分布の南限とされていた，ヒロハネムは実際にはネムノキが誤認されていたもので，喜界島にヒロハネムは分布しないことが明らかになりました。これらの調査結果は，「鹿児島県立博物館研究報告42号」に報告されています。

このように，自然に関する疑問について，テーマを決めて調査研究を行っています。

喜界島のネムノキ

令和４年度に開催した企画展

県立博物館では，収蔵資料や調査研究の成果や児童生徒の研究記録等を活用して様々な企画展を行っています。

令和４年度は，企画展「トカラの歩き方」（３月19日～６月５日），「キケンないきもの」（７月２日～９月４日），「ようこそ昆虫レストラン」（10月１日～11月27日），「鹿児島，渚の『・・・』」（12月24日～２月26日）を開催しました。

また，企画展「チャレンジ理科研究」（６月26日～８月28日）では，夏休みの自由研究のヒントを提供し，「理科に関する研究記録」（10月２日～10月15日）においては，児童生徒の優秀な研究を紹介することができました。

次年度も魅力ある展示会の開催を通じて，県内外の方々に鹿児島の自然や身近な科学に楽しく触れられる機会づくりを行っていきます。

企画展「キケンないきもの」の展示風景

企画展で行われるミュージアムトーク

＜学ぼう郷土の自然 移動博物館事業＞

県立博物館では，郷土の自然を見つめ，科学する心や自然と共生する心を培うために，「移動博物館事業」を行っています。

令和４年度は，新型コロナウイルス感染症の感染防止策を入念に行いながら，７月４日～７日に鹿児島養護学校，11 月 17 日～21 日に沖永良部島の知名町にて開催しました。

【鹿児島養護学校】

体育館を会場に，500 人を超える児童生徒，教職員のご来場をいただきました。

鹿児島養護学校展示会場

会場には，剥製や標本など，約 1,800 点を展示したほか，液体窒素を用いた演示実験「とほうもなく冷たい世界」や，博物館で飼育しているアオダイショウ，マダガスカルゴキブリにタッチするコーナーを設置しました。皆さん，思い思いに会場の展示や体験を楽しんでくださり，鹿児島の自然や生物，博物館を身近に感じてくださったようでした。

液体窒素の実験

【知名町】

町の体育館を会場に，シカやイノシシなどの鳥獣や世界の昆虫，植物，化石など 5,000 点を超える剥製や標本を展示しました。また，知名町の豊かな自然を紹介するコーナーも設けました。

平日は授業の一環として，町内の小中学校の児童生徒が観覧に訪れたり，休日は家族連れの観覧があったりして，期間中，延べ 4,150 人もの利用者で賑わいました。

知名町展示会場

会場では，展示を見て生まれた疑問や，日頃の生活の中で不思議に思っていることなどの質問に職員がお答えしたり，液体窒素の実験では凍ったバラの花びらがパリパリと音を立てて砕ける様子に子供たちの歓声が上がったりしていました。

ボランティアによる工作体験

また，土，日曜日は，沖永良部高校の生徒や役場の方々，学校の先生方に，星空観察会や工作体験コーナー等でボランティア活動をしていただき，職員，島民相互の触れ合いの時間も設けることができました。

今後も地域の自然に目を向け，その豊かさに気づいていただける事業を推進していきます。

展示紹介

２階展示を一部リニューアル

2021年（令和３年）７月26日，奄美大島・徳之島は沖縄本島北部・西表島とともに「世界自然遺産」として登録されました。日本では５番目の登録であり，鹿児島県では屋久島に次いで２番目の登録となります。これまでも２階の展示において，奄美の森を再現したジオラマや琉球列島の成り立ちを紹介するパネルなどで，奄美大島・徳之島をはじめとする南西諸島の自然やその多様性について紹介してまいりましたが，この度の世界自然遺産登録に合わせて，徳之島の自然を紹介するコーナーを新設し，琉球列島の成り立ちや渡瀬線についての解説パネルも新しい知見を加えてリニューアルいたしました。

リニューアルされた２階展示

また，今回のリニューアルに合わせ，映像による自然紹介に関しても改善を行いました。これまでは，５か所の展示コーナーにブラウン管モニターと液晶モニターが設置され，DVDによりコンテンツがリピート再生されておりました。しかし，近年の映像コンテンツの高解像度化に対応できないことや，幼児や車いす利用者の視認性が悪いことから，55インチ４K対応大型液晶モニターを設置し，来館者がボタンで見たい映像を選択できるシステムを設置しました。大きくてきれいな画面で，鹿児島の自然の魅力を感じていただけると思います。今後はドローンによる空撮映像など，最新の映像コンテンツに随時入れ替えを行ってまいります。新しくなった本館２階の展示をお楽しみください。

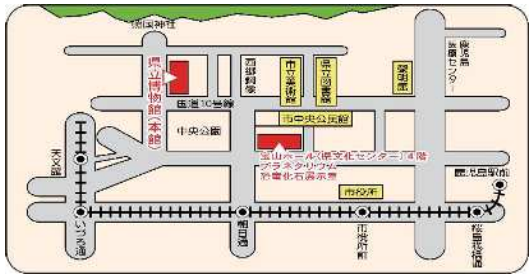
学芸室の窓から

博物館の活動には「資料収集・保管」，「調査研究」，「展示活動」，「教育普及活動」の大きく４本の柱があります。今回は当館の展示活動にも関わる大切な資料について紹介します。

当館では常設展示として，本館には植物，動物，岩石・化石の標本及び模型・レプリカ，写真の二次資料が約4,300点，別館にも約700点，計約5,000点が展示してあります。館内では魅力ある企画展や速報展等を開催するとともに館外で実施する移動展示など，県民の多様なニーズに対応した展示活動を展開しています。

さて，実はこの展示されている資料は当館に収蔵されている資料のごく一部に過ぎません。当館には16万点にものぼる資料が収蔵庫に大切に保管されています。近年，博物館等が収蔵する標本からDNAを抽出し，分析する研究が盛んになっています。自然史の新たな発見は我々が行っている野外調査だけでなく，これまで見逃されてきたことが博物館の収蔵庫から，新たに発見されることは決して珍しいことではありません。

また，世界中の標本がもつ情報は一般に公開されており，代表的なものとして地球規模生物多様性情報機構(GBIF)があり，10億件のデータを超えています。

当館では，年に２回，科学教室の中で「バックヤードツアー」を設けて，一般の方々にも博物館の裏側を見学いただいています。この機会に是非申込ください。

●鹿博だより 編集・発行 鹿児島県立博物館
〒892-0853　鹿児島市城山町１番１号
TEL 099-223-6050　FAX 099-223-6080
ホームページ https://www.pref.kagoshima.jp/hakubutsukan/